

---

自然談話に現れるフィラー  
－自然談話録音資料に基づいて－

*Fillers in Natural Discourse*  
－ *Analysis of Natural Conversational Data*－

中島 悦子  
Etsuko Nakajima

*Abstract:*

*The expressions such as ‘ano (anoo)’, ‘e (ee)’ and so on in natural discourse are defined as Fillers. This paper examines the classification and the frequency in the use of Fillers on the basis of recorded Japanese natural conversational data, and then analyzes the functions of Fillers.*

*This analysis exhibits the three functions of Fillers depending on the position where they are used in a single sentence. First, Fillers at sentence-initial position are used to signal a turn, an opening, a follow-up and a paraphrase of the utterance. Also, this paper argues that they represent the speaker’s modality (mental attitude) - surprise, finding and so on. Second, Fillers at sentence-middle position serve to express not only a link word but a psychological attempt of the speaker to direct the addressee’s attention to him/her. Third, Fillers at the sentence-final position indicate the speaker’s hesitation about saying something embarrassing and at the same time the close of his/her utterance.*

*Keywords: fillers, natural discourse, functions, sentence-initial position, sentence-middle position, sentence-final position*

キーワード：フィラー、自然談話、機能、発話頭、発話途中、発話末

## 1. はじめに

- (1) 718 それと、あの、まあ、ちょっと、えー、どちらかとゆうと、どちらかとゆうとゆうよりも、非常にビジュアルを重視したいので、このへんが、あのー、これ、ちょっと実はすごく色が出がよくなってですね。 [H-30f-会議]
- 719 はい。〈間〉 [M-40m-会議]
- 720 あのー、ものすごくうまくいってない号★なんですけども。 [H-30f-会議]
- 721 → はあ。← [M-40m-会議]
- 722 あのー、色を、かなりきっちり、出していただきたいとゆうのがあり★まして。 [H-30f-会議]

例(1)に見るように、日本語の自然な話しことばは書きことばに比べて不整表現やむだが多い。形態的にも書きことばとは異なるさまざまな言語形式が話しことばの特徴として現れる。(1)における傍線箇所のアノ、アノー、マー、エーも話しことばに特有な言語形式の1つである。

これらのアノー、エー等はこれまで統一した呼び方がなく、実にさまざまな名称で呼ばれてきている。古くは伝統的な国語学では、「感動副詞」(山田1936)、「感動詞」(佐久間1943、橋本1948)、「間投詞」(佐久間1943)、「陳述副詞」(渡辺1971)、「形式感動詞」(松下1977)等と呼ばれ、品詞の1つに位置づけられている。

その後アノー、エー等は話しことばを対象とする一連の研究の中では、「遊び言葉」(伊佐早1953)、「場つなぎ言葉」(遠藤1953)、“Hesitation”(塩沢1979)、「間投声」(『国語学辞典』1980)、「言いよどみ」(小出1983、岡崎1987、畠1988、山根1997a)、「無意味語」(山下1990)、「フィラー」(定延1993、野村1996、山根1997b、2002)等の名称がつけられている。

談話分析では、「談話標識 (discourse marker)」(メイナード1997)、「談話辞 (discourse marker)」(橋内1999)と呼ばれており、談話管理の立場から、定延(1993)では、「フィラー」を話し手が行う様々な心的情報処理操作を明らかにする機能を持つものと捉えられ、定延・田窪(1995)では、「ええと」「あの(ー)」は話し手が何らかの心的操作を行っている間に発話される「心的操作標識」とされ、田窪・金水(1997)で、感動詞・応答詞を心的な情報処理の過程が表情として声に現れたものとし、「入出力制御系」と「言い淀み系」とに分類されている。

以上、さまざまな呼び名がつけられてきたアノー、エー等を、本稿では野村(1996)、山根(1997b)に従い、「フィラー」と呼ぶことにする。フィラーの定義についても、野村(1996)の「本来の語彙的な意味から離れて用いられ、それを削除しても発話全体の命題的な意味が変わらないような語句」、山根(1997b)の「それ自身命題内容を持たず、かつ他の発話と狭義の応答関係・接続関係を持たない、発話の一部を埋めることば」とする定義を踏まえ、次のように規定する。

フィラーとは「それを取り去っても伝達する文・談話の命題内容に変化を及ぼさないもの」と定義する。例えば、(1)においてアノ、アノー、マー、エーを取り去っても文・談話の命題内容は変わらない。

しかしながらアノーという同一形態のものでも、例(1)の発話番号718のような発話の中間に位置するアノーは、前の語句と後の語句とのポーズ(間)をつなぐ語(遠藤1953の「場つなぎ言葉」)を踏まえ、本稿では「間つなぎ語」と呼ぶ、以下同様)としての機能が大きいものであるし、発話

の冒頭に位置するアノーは720では発話の切り出し（山根2002では新しい情報を切り出す際の注意喚起の役割を担うフィラーとするが、本稿では単に発話の切り出しと一括する、以下同様）として、722では話し手の発話権を維持するものとして機能している。出現する位置によってもフィラーの談話に果たす機能が異なるようだ。

いうまでもなく話しことばは話し手と聞き手との間に交わされるものである。その形式も1対1あるいは1対2以上の対話の話しことばもあれば、1対多の講演・講義等の話しことばもある。本稿で取り上げるフィラーは1対多の講演や講義の話しことばに現れるものではなく、1対2以上の対話の話しことば、それも自然な話しことば（以下自然談話という）に現れるフィラーを対象とする。

フィラーは「遊び言葉」といわれるように、改まった場面では避けられ（『国語学辞典』1980）、また「場つなぎ言葉」の役割を果たすエーなどは気の張らない、プライベートの時に無意識に出る（遠藤1953）といわれる。しかしながら、本稿で調査した自然談話の中では上例のアノ、アノー、マー、エーは雑談等のインフォーマルな場面よりも会議や打合せ等のフォーマルな場面のほうに多く出現している。

さらに、フィラーは若年世代（10代～30代）や中高年世代（40代～60代）によってもその使用頻度に差があるようだ。例えば上例のアノ、アノー、マー、エーはいずれも中高年世代のほうによく使われる傾向が高い。

本稿では、主として第1章でフィラーの種類とその類型、フィラーの出現率・出現順位について述べ、第2章で発話中のフィラーの出現位置とその機能等について言及する。なお、紙面の都合上、フォーマル・インフォーマルという場面差による改まり度、若年世代・中高年世代という世代差、女性に多く使われるフィラー、男性に多く使われるフィラー、即ち性差による特徴等は次稿に回すことにする。

資料は自然談話を録音・文字化した現代日本語研究会編1997『女性のことば・職場編』を使用した（以下自然談話録音資料という）。

これは、現代日本語研究会が1993年に有職の20代～50代の女性の職場における朝、昼、会議・打合せ（各10分）の自然談話を録音し、それを文字化したものである。録音の文字化からデータベースとして整備するのに3年を要し、作為の入らない自然な話しことばの資料として評価され、活用されている。

フィラーの出現数や例文の収集方法は中島が先行研究を踏まえフィラーと認定した語を、1つひとつ手作業で資料から採取して数値化し、〈表1〉にまとめたもので、さらに〈表1〉に従ってフィラーの例文集を作成し、その例文を内省に基づき観察し、分析を行ったものである。

用例中の★は発話の途中で次の話者の発話が始まった時点を示し、前の話者の発話に重なった部分の始まりを→、終わりを←で示す。#は聞き取り不明の箇所である。上昇イントネーションは↑で示す。冒頭の718は発話番号を示す。用例末の[ ]は、例えば(1)の[H-30f-会議]では、Hが発話者名、30fが30代女性、会議がフォーマルな会議の場面を示す。フィラーには傍線を引いておく。

## 2. 自然談話におけるフィラーの現れ方

### 2.1 自然談話のフィラーの種類とその類型

どんな語がフィラーと認定されるのかということになると、諸家の間でもさまざまであり、一定していない。例えば山下（1990）の「無意味語」の分類では、アー等の声的間投詞、コノ等のこそあどの間投詞的用法、ネ、デ等の助詞・助動詞の間投詞的用法、ホラ等の間投詞に加えてダカラ、チョット、ツマリ、ナンカ、イワセテモラウト等の接続詞、副詞・名詞・動詞の間投詞的用法までが含まれている。

塩沢（1979）の“Hesitation”（「口ごもり」と訳されている）では、無言型、のぼし型、ひきつづき母音型、母音型（エー類、アー類、ウー類、シー類）、連体詞型（アノ類、コノ類、ソノ類）、副詞型（マー類、コー類、ナンカ類、ナント類、ヤッパリ）、代名詞「なに」型（ナンデス）、感動詞「そうね」型、アノネ型に種類分けされている。

山根（2002）ではフィラーを「それ自身命題内容を持たず、かつ他の発話と狭義の応答関係・接続関係を持たない、発話の一部分を埋める音声現象」と修正し、フィラーの種類を、母音型（ア（ー）、イ（ー）、ウ（ー）、エ（ー）、オ（ー））、あいまい母音型（アとエの中間の音）、エート型（エート、エートー、エット）、コーソー型（コ（ー）、ソ（ー））、コソア型（コノ（ー）、ソノ（ー）、アノ（ー）、アノネ）、ナンカ型（ナニ、ナンカ（ー）、ナンテユウノ、ドウユウカ）、ネー型（ネ、イヤ、ハイ）、ハイ型（ハイ、ウン、ホン、フン）、マー型（マ（ー）、マーネ）、モー型（モ（ー）、モーネ）、シー型（シ（ー）、シートネ、ウーン、ウーント）に分類している。

本稿では、「それを取り去っても伝達する文・談話の命題内容に変化を及ぼさないもの」という定義に従い、以下の語をフィラーと認定し、自然談話録音資料の6000発話の中から採取した。

ア、アー、アッ、エ、エー、エッ、オー、コノ、ソノ、ソノー、アノ、アノー、コ、コー、ソ、ソー、エート、エートー、ナンカ、ナンカー、シ、シー、ウーン、マ、マー、モ、モー、ヤ、ヤー、ヤッ、ネ、ネー、ハイ、エエ、ウン、へー、ホー、ホラ、ホラー、ホレ、デー

以上の自然談話録音資料から採取したフィラーを、音声面から種類別に類型化して示すと次のようになる。なお、本稿の分類は山根（2002）を踏まえるものだが、アノネのような助詞が付加されたもの、ナンテユウノ、ドウユウカのような語は除く。新たに加えたものは⑧のヤー型、⑨のへー・ホー型、⑩のホラ型、⑪のデー型である。

- ①母音型           : ア、アー、アッ、エ、エー、エッ、オー
- ②コソア型       : アノ、アノー、ソノ、ソノー、コノ、コ、コー、ソ、ソー
- ③エート型       : エート、エートー
- ④ナンカ型       : ナンカ、ナンカー
- ⑤マー・モー型   : マ、マー、モ、モー
- ⑥シー型         : シ、シー、ウーン、ウーント
- ⑦ハイ型         : ハイ、エエ、ウン
- ⑧ヤー型         : ヤ、ヤー、ヤッ
- ⑨へー・ホー型   : へー、ホー
- ⑩ホラ型         : ホラ、ホラー、ホレ
- ⑪デー型         : デ、デー

## ⑫ネー型 : ネ、ネー

以下にフィルターの種類の主な例を示しておく。

## ①母音型

- (2) 2065 あ、なん回使うんだろう、この記事、もう、考えられないよ。 [M-40f-打合]  
 2066 えーっと。 [M-40f-打合]  
 2067 あ、いけないこりゃロンドンか。 [M-40f-打合]  
 (3) 2886 あのー、いちようですね、え、まあ、それでー会社のほうは今日から入社して働き出しております。 [H-40f-打合]  
 (4) 4728 <笑いながら> なんか、よく、ほら、わたしもそうゆう年になってきたのかなーって思っちゃって。<笑い> [H-30f-雑談]  
 4729 お、よ、そんなに、こう、線の太いタイプじゃない。 [M-60m-雑談]

## ②コソア型

- (5) 902 それでー、あのー、今までや、やられた [社名] さんでの、(はい inf (女)) なんかあの、入場からそのー、色校だし会議後 (ご)、最後まで、(ええ inf (女)) あ、あのスケジュール表みたいのはなんか、参考まで、ございます↑ [M-不明m-会議]  
 (6) 2088 多分ねー、[名字] さんってゆうねえ、デザイナーちゅうの、この、あれにさあ。 [M-40f-打合]  
 (7) 1291 →うん、しといて、そ、うごかさないうで済むからいいじゃない。← [M-50f-会議]  
 1292 あーあのね、こー。 [S-40m-会議]

## ③エート型

- (8) 656 えーと、あの、もう、えー、[名字] さんのほうから、(はい 他者 (男)) お話、話のほうは、あの、いろいろ、お聞きだとは思いますが。 [H-30f-会議]

## ④ナンカ型

- (9) 81 見て、ここなんか、ほら、なんか三原山の噴火みたいになっちゃった。 [W-20f-雑談]  
 82 あっ、ふーん。 [I-30f-雑談]  
 83 なんか鳥の糞って感じがするんですけど。 [I-30f-雑談]

## ⑤マー・モー型

- (10) 528 まあ、ワイキキにいるぶんはねー、ま、ハワイはさー、それに買いもんとかがあるから、(うん 他者 (女)) 買いものが好きな人は、別にいでしょ。 [S-20f-雑談]  
 (11) 4689 あー、いやー、もう、なんかね、一週間まえ、わたしのほうはばたばたしてますけど。<笑い> [H-30f-雑談]  
 (12) 5631 も、なんかあったら、絶対みんな奥さんのかたもつよねー。<問> [S-40f-雑談]

## ⑥ンー型

- (13) 2371 21インチは5万は、ん、まあまあ安い。 [不明m-雑談]

## ⑦ハイ型

- (14) 101 左利きの人は違うかもしれない。 [W-20f-雑談]  
 102 うん。 [I-30f-雑談]  
 103 はい、一件落着、つぎ。 [W-20f-雑談]

- (15) 2910 ですから、まあ、あの一、社内体制については全くご心配いただくこともございませ  
んし、はい。 [H-40f-打合]
- ⑧ヤ一型
- (16) 1448 やでも時間がきのどく。 [M-50f-会議]  
1449 ずっと上に、雛壇に上がってるのは、辛い↑ [S-40m-会議]  
1450 や一、あたしたちは上がっててもいいけどあの方たち、悪いよね。 [S-50f-会議]
- ⑨へ一・ホ一型
- (17) 1151 あ一、ほ一、で、パチッと止めちゃえばいいの。 [Y-40m-仕事]
- ⑩ホラ型
- (18) 1106 そいで、ええーと、これが、あの一、ほら、カメラマンにお支払いしたほう★です。  
[H-30f-仕事]
- ⑪デ型
- (19) 471 それ買ってたんだもんな、あのABCストア↑ [O-20f-雑談]  
472 ん一。 [S-20f-雑談]  
473 で、それ買ったの。 [O-20f-雑談]  
474 そうだね、スーパーとかでなんかかわいいの探すぐらいしかないもんね。  
[S-20f-雑談]

## 2.2 フィラーの出現数・出現率・出現順位

自然談話録音資料の6000発話中に得られたフィラーの出現数・出現率・出現位置・場面差・性差・世代差の数値をまとめたのが〈表1〉である。

〈表1〉によると、6000発話中から採取されたフィラーは総数1630あり、その出現順位は以下のようになる。なお、%は対総数比、即ち総数1630に対する比率を示す。

類型別では、第1位がコソア型で出現数617、37.9%、第2位が母音型で出現数330、20.2%、第3位はマー・モー型で出現数181、11.1%、第4位はデ型で出現数151、9.3%、第5位はナンカ型で出現数116、7.1%、第6位はエート型で出現数83、5.1%となり、以下シー型、ハイ型、ホラ型、ヤ一型、へ一・ホ一型の順位となっている。

フィラー個々別で見ると、最も多いのはアノー(305、18.7%)とアノ(228、14.0%)で、その出現率は32.7%とフィラー出現総数の3割にも上る。次に多いのがア(136、8.3%)、デ(126、7.7%)、さらにナンカ(115、7.1%)、エー(86、5.3%)、マー(86、5.3%)、エート(76、4.6%)という順位となっている。自然談話に現れるフィラーは、アノー、アノが最多で、ア、デ、ナンカが次に続いて多く、エー、マー、エートも他のフィラーに比すと少なくないことが実証される。

また、自然談話に現れるフィラーは発話の冒頭(発話頭と呼ぶ)か発話の途中(発話途中と呼ぶ)か発話の末尾(発話末と呼ぶ)かによって出現数が異なる。その出現位置による現れ方を見ると、母音型のア、アー、アッ、エ、エート型のエート、デ型のデ、デー、シー型のシー、ウーンは発話頭のほうに多く、コソア型のアノ、アノー、ソノ、ソノー、コノ、コー、ソー、ナンカ型、母音型のエー、マー・モー型、ホラ型は発話途中のほうに多い。ハイ、エエ、ウンは発話頭と発話末に出現する。また、アノ、アノー、エ、エー、ナンカ、モー、ホラ等も発話末に出現している。

〈表1〉 フィラーの出現数・出現率・出現位置・場面差・性差・世代差

	数	%	発話頭	発話中	発話末	雑	会	電	男	女	不明	若	中高	不明
①ア	136	8.3	119	17	0	54	69	13	22	113	1	62	70	4
アー	29	1.8	26	3	0	17	12	0	8	19	2	18	9	2
アッ	28	1.7	26	1	1	15	7	6	4	24	0	6	21	1
エ	42	2.6	31	8	3	8	29	5	11	31	0	20	20	2
エー	86	5.3	20	61	5	7	70	9	14	72	0	38	45	3
エッ	6	0.4	6	0	0	4	1	1	2	4	0	2	4	0
エッー	1	0.1	1	0	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0
オー	2	0.1	1	0	1	1	0	1	1	1	0	0	2	0
②アノ	228	14.0	31	192	5	60	143	25	45	180	3	86	126	16
アノー	305	18.7	61	233	11	68	198	39	77	214	14	83	207	15
ソノ	35	2.1	0	34	1	6	28	1	2	33	0	9	26	0
ソノー	18	1.0	1	17	0	2	16	0	12	6	0	3	15	0
コノ	2	0.1	0	2	0	0	2	0	0	2	0	2	0	0
コ	8	0.5	1	7	0	3	5	0	0	8	0	6	2	0
コー	16	1.0	0	13	3	8	7	1	7	9	0	7	9	0
ソ	1	0.1	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0
ソー	4	0.2	0	4	0	2	2	0	3	1	0	2	2	0
③エート	76	4.6	44	32	0	4	61	11	10	66	0	42	33	1
エートー	7	0.4	2	5	0	0	7	0	2	5	0	4	3	0
④ナンカ	115	7.1	33	76	6	69	40	6	18	95	2	68	41	6
ナンカー	1	0.1	0	1	0	1	0	0	0	1	0	0	1	0
⑤マ	36	2.2	11	25	0	9	24	3	14	22	0	7	26	3
マー	86	5.3	29	57	0	17	69	0	16	70	0	20	66	0
モ	4	0.2	2	2	0	3	1	0	0	4	0	3	1	0
モー	54	3.3	14	34	6	28	26	0	2	52	0	21	30	3
モッ	1	0.1	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0
⑥ン	7	0.4	5	2	0	4	2	1	1	6	0	4	3	0
ンー	13	0.8	10	3	0	8	5	0	6	7	0	6	6	1
ウン	26	1.6	15	8	3	11	15	0	1	25	0	8	17	1
⑦始めのハイ	1	0.1	1	0	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0
ハイッ	4	0.2	4	0	0	0	0	4	4	0	0	0	4	0
ン	1	0.1	1	0	0	0	1	0	0	1	0	1	0	0
終わりのハイ	19	1.1	0	0	19	3	10	6	2	17	0	4	15	0
エエ	5	0.3	0	0	5	1	3	1	4	1	0	0	5	0
ウン	10	0.6	0	0	10	4	6	0	2	8	0	3	6	1
ウンー	4	0.2	0	0	4	2	2	0	3	1	0	3	1	0
⑧ヤ	7	0.4	4	3	0	3	4	0	1	6	0	1	4	2
ヤー	4	0.2	4	0	0	0	4	0	2	2	0	0	4	0
ヤッ	1	0.1	1	0	0	0	1	0	0	1	0	1	0	0
⑨ヘー	6	0.3	6	0	0	6	0	0	0	6	0	1	5	0
ホー	4	0.2	4	0	0	1	3	0	3	1	0	1	3	0
⑩ホラ	35	2.1	3	29	3	19	14	2	8	25	2	8	22	5
ホラー	1	0.1	0	1	0	1	0	0	0	1	0	0	1	0
ホレ	1	0.1	0	1	0	1	0	0	0	1	0	0	1	0
⑪デ	126	7.7	98	28	0	34	90	2	24	102	0	55	68	3
デー	23	1.4	17	5	1	3	20	0	8	15	0	2	21	0
デッ	2	0.1	2	0	0	0	2	0	0	2	0	0	2	0
⑫ネ	1	0.1	1	0	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0
ネー	2	0.1	1	1	0	2	0	0	0	2	0	2	0	0
計	1630	100.0	636	907	87	492	1001	137	339	1267	24	612	949	69
%	100.0	100.0	39.0	55.6	5.3	30.1	61.4	8.4	20.8	77.7	1.5	37.5	58.2	4.2

### 3. 自然談話のフィラーの出現位置とその機能

フィラーによって発話頭に出現する傾向が高いもの、発話途中に出現する傾向が高いもの、発話末に出現するもの（例えば終わりのハイ、エエ、ウン）等、その出現位置に違いが見られる。

また、フィラーによっては発話頭にも発話途中にも発話末にも出現するものがある。アノ、アノー、エ、エー、ナンカ、モー、ホラ等は発話頭にも発話途中にも発話末にも出現する。例えばアノーは次の(20)に示すように、発話頭では発話の切り出しに使われ、発話途中では間つなぎ語として使われ、(21)のように文末では言いよどみの標識として使われている。なお、本稿でいう言いよどみとは、現代日本語研究会編（1997）の「ことばや表現につまって発話が完結しなかった場合を言いよどみとする」という解釈に従う。

(20) 1567 あのー、テープはですね、あのー、会場なかにー、あのー、デッキがありましてー、  
でー、★1本はーとれるんです。 [S-40m-会議]

1568 →やっていただけのね。← [S-50f-会議]

1569 あ、じゃあ、それでいいでしょ。 [S-50f-会議]

(21) 811 今度、あの、はんし、あのー、〈言いよどみ〉 [H-30f-会議]

このように同一形態のフィラーでも発話頭か発話途中か発話末かという出現位置によってもその機能が異なるようだ。こうした出現位置に左右されるフィラーの機能を発話頭、発話途中、発話末に分けて次に考察していくことにする。ただし、フィラーの機能についての考察であるから、個々のフィラーの出現率については本章では触れない。

まず、フィラーの役割、機能が先行研究にどのように捉えられているか見てみる。

伊佐早（1953）では、エー、ソノーを「遊び言葉」とし、「それらは次のコトバが出るまでの、いはゞ「場ふさぎ」にすぎないとはいへ、「エー」とか、「そこで…」とか、「つまり…」とかのつなぎによって、相手の注意をひきとめておき、その間に適当な次のコトバをさがして、なるべく筋をと、のへようとするわけでもあろうし、結果的には次のコトバの前触れ乃至強調になる場合もある。」と述べている。

塩沢（1979）では、“Hesitation”の役割について「沈黙を避ける」働きの他「話し手の交替に使われる時は相手の注意を引き、自分が話し始めることを認めてもらう、答える内容を考えている間を補う、文頭では文の調子を整える、文中では次の助詞や助動詞を選択している間に使う、躊躇を示す」などを挙げ、文頭か文中か使われる位置によって、いくつかの異なった働きをすることが指摘されている。

国語学辞典（1980）では、エー、ソノーを「間投声」とし、「話すための構えの整備、間の悪さの解消・補い、聞き手の注意の喚起などの役に立つ」とする。

小出（1983）では、エー、アー、アノーを「言いよどみ」とし、「その言葉の意味から言えば、話し手がためらい、そのために音の流れが停滞し、淀むこと」であるという。言いよどみの役割については「話し手の心的な態度を表す、語の速度を下げ、話の丁寧度を増加させる、話を和らげる」とある。

山下（1990）では、「間を埋める言葉、間に挿入される語」を「無意味語」とし、その役割を「話を落ち着かせたり、形をととのえる、強調、前ぶれ」や「発話のきっかけをつかむ」ものであるとする。



野村 (1996) では、フィラーには機能上対人的な意味やテキスト構成的な意味に関わるものがあるとして、①純粹に対人的なものに呼びかけの語、注意を喚起する小辞 (「ほら」「ね」等)、②対人的かつテキスト構成的なものに発話境界をマークするフィラー (「あ」「ね」等) と換言・修正をマークするフィラー (「あの一」等)、③純粹にテキスト構成的なものに話し手の話しやすさのためのフィラー (「えーと」等) があると、3点を挙げている。

田窪・金水 (1997) では、「え、ああ、へえ、ふうん、ああ、ま、あの、ええと、その」類のことは心的な過程が表情として声に現れたものとして、入出力制御系と言い淀み系に分け、前者を応答1 (ああ、はい、はあ、ええ、うん、ふん)、応答2 (いいえ、いえ、いいや、いや、いやいや)、意外・驚き1 (は、はあ、え、ええ、へえ、ふん、えっ、はっ、ふんっ)、意外・驚き2 (あれ、あら、おや)、意外・驚き3 (おお、わあ、おっ、わっ)、発見・思い出し (あ、あっ、はっ)、気付かせ・思い出させ (ほら、そら、それ)、評価中 (ふうん、へえ、ほお)、迷い (ううん)、嘆息 (あ (／は) あ、お (／ほ) お、う (／ふ) うん) 等に、後者を非語彙的形式 (え、ええ)、語彙的形式として内容計算 (ええと、ううんと)、形式計算 (あの (一)、その (一)、この (一))、評価 (ま (あ)、なんとというか、なんか、やっぱり) とに分類している。

山根 (1997 a) では独語である留守番電話の談話について、「ア」と「エ」の母音で始まる言いよどみがほとんどであること、開始部に「ア」、中心部の前に「エ」で始まる言いよどみが多いことを指摘したが、山根 (1997 b) で、留守番電話の談話と会話の電話に言いよどみだけにとどまらない表現があり、「フィラー」とし、定義づけ (前述) を行っている。一連の研究をまとめた山根 (2002) で留守番電話、講演、対話の談話に現れるフィラーの機能に修正・換言、埋め込み、引用示唆、整調、次の発話への引き込み、発話の方向性指示、聞き手への配慮があるとし、対話においては談話の開始部にエーやハイ、発話の冒頭にはア、アノ (一)、マ (一) が多く、話し手の相づちの後にはアノ (一)、ア (一) が多いという。さらに対話におけるフィラーには、①二人の話し手の心的関係を円滑に保つ、②発話境界を示すという2つの大きな役割があるため、この2つを兼ね備えるアノ (一)、マ (一) の頻度が高く、エーやエートは心的関係を円滑に保つ役割が希薄なため頻度が低いと指摘する。

本章で考察するフィラーの機能については以上の先行研究を踏まえるものだが、特に野村 (1996) の発話境界、換言・修正の機能、及び山根 (2002) の対話における発話境界を示す機能、話し手の心的関係を保つ機能を踏まえる。自然談話録音資料の用例を観察すると、フィラーには大きく次のような機能があることが分かる。

1 つめは発話境界の明示 (野村1996、山根2002参照、以下同様)、発話の切り出し、話し手の発話権の維持、前の発話の補正 (野村1996の換言・修正を本稿では補正と規定する、以下同様) の機能である。これらを一括して談話進行を管理する機能とする。発話頭に出現するフィラーがこれらの機能を担うことが多い。

2 つめが発話中のポーズ (間) を埋めるためにフィラーでその間をつなぎ、次の発話の展開を整える間つなぎ語としての機能である。これを発話展開に関与する機能とする。多くの先行研究の指摘する聞き手への注意喚起も発話展開に関与するものとしてここに含める。発話途中に出現するフィラーがこうした機能を担うことが多い。

3 つめが話者の心的態度の表出 (小出1983、田窪・金水(1997)、山根2002参照、以下同様) の

機能である。話者の心的態度とは文法論でいえばモダリティに相当するもので、感動詞がモダリティ形式を担うものであることは既によく知られている。この話者の心的態度を表すフィラーは聞き手への配慮（山根2002参照、以下同様）を示すものとして、談話進行、発話展開に関与すると考えられる。発話頭にも発話途中にも出現するフィラーに見られる。

4つめが言いよどみの機能である。本稿における言いよどみとは前述した現代日本語研究会編（1997）の解釈に従うものである。従って先行研究（小出1983、山根1997 a）で取り上げた言いよどみとは解釈が異なる。また同研究会編（1997）の「相手のさえぎり、あるいは話者の自発的意志によって、発話が完結せず、言いかけで終わってしまった場合」という言いさしもここに含める。言いよどみ、言いさしの機能は発話末に現れるフィラーが担う。

5つめが発話の開始と発話の終了を示す機能である。中島（2001）で考察した応答詞「はい」の機能のうち、始めの「はい」、終わりの「はい」と分析したものである。これは発話の開始部と終了部に現れ、肯定応答を表さない、いはば文頭詞的、文末詞的な機能を持つものである。本稿ではこのようなハイをフィラーに含め、発話開始機能を持つフィラー、発話終了機能を持つフィラーとする。発話頭と発話末に出現する。

フィラーによっては（例えばアノ（一）、エー、ナンカ、デー、マ（一）、モー等）いくつかの機能を併せ持つものがある。

### 3.1 発話頭に出現するフィラーとその機能—談話進行を管理する機能—

談話の冒頭に現れるフィラーは、話し手と聞き手との円滑なコミュニケーション運営上、つまり、談話進行を管理する上で大きな機能を担っている。1つが発話境界を明示したり、発話を切り出したり、発話権を維持する機能、2つが前の発話を補正する機能、3つが話者の心的態度を表出する機能である。それぞれ具体例に照らして見ていく。

#### 3.1.1 発話境界の明示・発話の切り出し・発話権の維持

談話進行を管理する上でフィラーが果たす機能のうちの1つは発話境界を明示する機能である。次の(22)(23)(24)のようにア、エ、エーは、話し手と聞き手とが交替する位置に現れて、発話境界を明確に示すフィラーとして出現する。アーも(25)のように発話転換に関与し、発話境界を明示する機能として働く。

- |           |                                |            |
|-----------|--------------------------------|------------|
| (22) 1162 | で、それとはまったく別に一枚。                | [Y-40m-仕事] |
| 1163      | あ、これを★コピーして↑                   | [H-30f-仕事] |
| (23) 592  | フィジアンでなきゃ。                     | [O-20f-雑談] |
| 593       | え、往復に、いくらってゆったっけ、ホテルが1週間ついててー。 | [S-20f-雑談] |
| (24) 832  | こうゆう、こうゆうのがちょっと。               | [H-30f-会議] |
| 833       | えー、タイトル類が# ちょっと。               | [K-20m-会議] |
| (25) 2064 | どうも失礼しました。                     | [M-40f-打合] |
| 2065      | あー、なん回使うんだらう、この記事、もう、考えられないよ。  | [M-40f-打合] |

また、フィラーには次の(26)のエートのように、同一話者の発話頭に現れ、聞き手との話者交替には関与せず、1発話ごとに発話の切り出しに使われることによって、話し手の発話権を維持する

機能を持つものがある。

- (26) 757 で、その場合(ばわい)にですね、レイアウトなんですけれども。〈間〉  
[H-30f-会議]
- 758 えーと、えー、レイアウト、あれ↑〈間〉  
[H-30f-会議]
- 759 えーと、それで作業工程が違うので、あの一、レイアウトをなん、いく組もお渡しして、いたんですね。  
[H-30f-会議]
- さらにフィラーには次の(27)のデのように、同一話者の1発話ごとの発話頭に現れることによって、発話権を維持する働きをする。また、(28)のデーのように聞き手の応答の後の発話頭に現れ、発話を切り出すことによって発話境界を明示するものもある。
- (27) 667 で、そうゆう、ことでだいたいおおよそは、あの、フロッピー入稿を、してあげました。  
[H-30f-会議]
- 668 で、えー、遅れたものとか、ちょっとこちらで入力でき、えなかったものだけ、手書きの原稿がいきますが、ほとんどが、えー、フロッピー入稿とゆうふうに考えていただいて、けっこうだと思います。  
[H-30f-会議]
- 672 で、これの指定のしかた等々(とうとう)をちょっと詳しく、あの、あとで、えー、打ち合わせさしていただきたいと思うんですが。  
[H-30f-会議]
- 673 あの一、デザイナーからはですね、えー、これをコピーしたもので、ここに指定が入っているものが来るんですね。  
[H-30f-会議]
- 674 で、そうしますとこちらでは、えーと、場合によっては違うーんですが、なん行になるかによって、こことここが、あの、決まってくるよな。  
[H-30f-会議]
- 675 で、えーと、行間と、あの一、文字指定は入るんですけども、えー、行数がどれぐらいになるかってゆうのはちょっと英語で、(はあはあ 他者(男))★決定してくるわけです。  
[H-30f-会議]
- 676 →そうですね、はい。←  
[M-40m-会議]
- 677 で、その場合この、空きで、ここに空きが入るってのは、いつもは、あの一、一定とゆうわけではなくて、この空きでいろんなくあいに調整をしているん★ですね。  
[H-30f-会議]
- (28) 1078 でも、ほら、あたしーが、通勤する分にはまあ、多少の、あれはいいんだけど、子どもを保育園に連れてくじゃない。  
[H-30f-雑談]
- 1079 ああー。  
[S-20f-雑談]
- 1080 で一、子どもを連れてバスに乗り、子どもを連れて電車に乗り、保育園までえんえん行くからー、それがすごく、大変。  
[H-30f-雑談]
- 聞き手の応答を受け、その直後の発話頭に現れるフィラーは発話を切り出す機能を持つが、話し手はこうした発話を切り出すフィラーを使うことによって聞き手に提案・説明等の働きかけを行う。聞き手も肯定の応答詞で応じる。次の(29)のアノー、(30)のアノがその例である。
- (29) 1542 読売も言ってきました、来ますって言ってきました。  
[M-50f-会議]
- 1543 ああそうですか。  
[T-60m-会議]
- 1544 あの一、新聞社の席はちょっと別につくっといた方がいいですね、★どっか。  
[M-50f-会議]

- 1545 →ん。← [T-60m-会議]  
 (30) 5581 4時ごろにこちらに來ます。 [Y-20f-打合]  
 5582 4時↑ [Y-40f-打合]  
 5583 ★はい。 [Y-20f-打合]  
 5584 →はい。← [K-40f-打合]  
 5585 あの、視察があるので、ずらしてもらいました。 [Y-20f-打合]  
 5586 ああ、そう、★はい。 [K-40f-打合]

もちろん、アノー、アノには次の(31)のように発話境界を明示したり、(32)のように話し手の発話権を維持する機能もある。また、発話頭に現れるナンカも(33)のように話者交替の位置に現れて、発話境界を明示する。

- (31) 891 ちょっと、難しい、このブルーの色合ってゆうのは、とか、このへんがこー、くすんじやって、なんかきれいでてなかったんですねー。 [H-30f-会議]  
 892 あの、スケジュールとの、ま、兼ね合いにもなるんですけども、(ええ inf (女)) クオリッティーの高いものをつくるんでありたいとゆうには、やはり、色校は2回ぐらいとってですね、再考できればと、ゆうかたちのがベストだと思うんですけども。 [H-40m-会議]  
 (32) 770 まあ、これが。〈言いさし〉 [H-30f-会議]  
 771 はい。 [M-不明m-会議]  
 772 あの、つまり、たぶん、えーと、[社名] さんの場合、あの、全部工程か違うとゆうことだったので、それで、これを、あのー、営業のかたが持って帰、られたあとで、あのー、みつつに、ぶん、全部ばらばらにわけて (はいはい 他者 (男))、作業進められていた (はい 他者 (男)) と思うんですよ。 [H-30f-会議]  
 773 で、あの、色分解と、それから文字のほうを分けるのはわかるんですが、えーと、文字と版下の製作とを分けるとゆうことも必要ですか。 [H-30f-会議]  
 (33) 645 いいとこなんて、テニスコートとかあるとことかあんでしょ↑ [O-20f-雑談]  
 646 うん、そ、サウナとかねー、うーん。 [S-20f-雑談]  
 647 なんか、で、だからハワイにも、ってんで見つけた時にー、そうゆう、あと、コインランドリーとかもあって↑ (うん inf (女))、レンタカーもついて↑、★とかいうのもあったのね。 [O-20f-雑談]  
 648 →そうそうそう。← [S-20f-雑談]

マー、マが発話頭に現れる場合は発話の切り出しがソフトに行われる。例えば(34)(35)の発話頭のマー、マはソフトな発話の切り出し機能を、(36)のシーも発話の切り出しを和らげる機能を持つ。(34)(35)の4483と782の発話頭のマーは同一話者の発話権の維持機能を担うものである。

- (34) 4482 まあ、あの、なにを話せばいいのかなってゆうのがありますがー、まあ、現行の状況と、ちょといろいろ見るとー、進路指導見てもー、多少ちょっと、(あ、はあ 他者 (女)) 違うところがあるんですね。 [H-30f-会議]  
 4483 でもまあ、だいたいこうゆうような線でー、あのー、とにかく厳しいとゆうこと、まあ、あの今年就職状況も厳しい、とゆうことをあわせてー、大雑把に、短時間でお話

- をしようと思っております。 [H-30f-会議]
- (35) 779 ま、ほんらいあの、お時間があれば、(ええ inf (女)) あの一、え一、文字を組んで、  
(ええ inf (女)) 初校を出して、そいで、いちおう赤字を出して、OK (オーケー)  
ですよって戻して、ま、とうぜん多少なりでも直しがありますね。 [M-不明m-会議]
- 781 ええ、ええ。 [H-30f-会議]
- 782 まあ、あまり時間がなくて、同時ってな形があるときあるんであれば、2つ★いた  
だければ。 [M-不明m-会議]
- (36) 488 でもあたしより悪いじゃない↑ [S-20f-雑談]
- 489 んーなんで★あたし## ##。 [O-20f-雑談]
- 490 →んー、ま、もとから←★悪いもんね。 [S-20f-雑談]
- また、次の(37)(38)のような発話頭に現れるハイ、ハイッは発話を開始する合図として働く。即ち発話開始機能を持つものである。
- (37) 101 左利きの人は違うかもしれない。 [W-20f-雑談]
- 102 うん。 [I-30f-雑談]
- 103 はい、一件落着、つぎ。 [W-20f-雑談]
- (38) 5339 はいっ、おそれいりますが、よろしく願いいたします。 [K-40m-電話挨拶]

### 3.1.2 前の発話の補正

発話頭に出現するフィラーに観察される機能の2つめは、前の発話を補正する機能である。特に母音型のア、アー、エ、コソア型のアノーに顕著に観察される。

- (39) 1259 →聴衆←は。 [S-50f-会議]
- 1260 あ、聴衆はなしです。 [S-40m-会議]
- (40) 1128 とりあえず、★じ、実費の清算だけ。 [Y-40m-仕事]
- 1129 →いいです↑← [H-30f-仕事]
- 1130 あ一、とゆうのはね一、(うん 他者 (男)) え一と、ここにほら、アドバンスで、  
(うん他者 (男)) 払った分の、しょ、が、この、これ★なの。 [H-30f-仕事]
- (41) 862 あ、毎回違うケースで。 [M-不明m-会議]
- 863 え、毎回違うケースもあるんですが、(はい 他者 (男)) も一めんどこさいから、あ  
んまりですねえ、(ええ 他者 (男)) この大きさに効果的にとれる紙ってゆうのが、  
そんなにはたくさんないみたいで。 [H-30f-会議]
- (42) 1369 13時から、13時から、★14時45分ね。〈独り言〉 [S-50f-会議]
- 1370 →あの一、そうゆうこと、←まあ予測して、おりませんでしたので、ええ、[名字]  
先生の予言が当たったみたいなんですがね。 [T-60m-会議]
- 1371 うん。 [S-50f-会議]
- 1372 あの一、[名字] さんが終わったところで、やっぱり、こう聞きたい人もいるでしょ  
うから。 [T-60m-会議]

例えば(39)の冒頭のアは、直前の「聴衆は」という他者発話を、「あ、聴衆はなしです」と補正する標識として出現している。(41)の冒頭のエも、直前の他者発話「毎回違うケースで」という発

話内容を、話し手が「え、毎回違うケースもあるんですが、……」というように補正を加える標識として使用している。(40)のアー、(42)アノーも同様に補正機能を表すものとして使われている。

### 3.1.3 話し手の心的態度の表出 一気づき、驚き、納得、和らげ、ためらい

既に小出 (1983)、田窪・金水 (1997)、山根 (2002) の指摘にあるように、フィラーには話し手の心的態度を表出するものがある。自然談話録音資料にも気づき、驚き、納得、和らげ、ためらい等の話し手の心的態度を表すものが観察される。

話し手の心的態度のうち、気づきや驚きの表出には母音型のア、アー、アッ、エツが使われる。例えば(43)のア、(44)のアーは気づき、(45)のアッ、(46)のエツは驚きといった心的態度が音声に表出したものである。

- (43) 4091 いや、[名字] くんが思いのほかにはせりふがうまいのよ。 [O-50f-雑談]  
 4092 あ、[名字] くんじゃないや、あたしがゆってるのは [名字] くんた。 [O-50f-雑談]  
 (44) 4297 あー、あたし、お花一、きのう生けんの忘れてた。 [H-30f-雑談]  
 (45) 2934 ただね、(ええ inf (女)) とうとう、けっきょく一、だからね、今日は、してない、  
 ★出して、プリントアウトしてないの。 [G-60m-打合]  
 2935 →プリントアウト。← [H-40f-打合]  
 2936 あっ、プリントアウトされてないんですか。 [H-40f-打合]  
 (46) 5796 [名字] さん、とりにく、はいってるよ。 [N-20f-雑談]  
 5797 いわなければ一、わからないのに一。 [Y-20f-雑談]  
 5798 いや、わかるもん一。 [N-20f-雑談]  
 5799 えっ、★これ、とりのな↑ [S-40f-雑談]

次の(47)(48)のアーは、話し手の心的態度のうち話者の納得を表示するものである。例えば(47)は「おみやげも地方に行かなくても地方のものが買えちゃう」という聞き手の発話に対して、話し手は「あー、行かないで買えちゃうのね」と聞き手に対して自身が納得したことを表明し、対話を滑らかに進行させている。(48)のアーも聞き手の発話に対する話者の納得を示すものとして、話し手と聞き手とのコミュニケーションを円滑に保つ機能、つまり談話進行を管理する機能を担っている。

- (47) 448 おみやげも一、(うん、inf (女)) だから地方に行かなくても★、地方のものが買えちゃうぐらいな一。 [O-20f-雑談]  
 449 →あー、行かないで買えちゃうのね。← [S-20f-雑談]  
 (48) 1245 だから、0 (ゼロ) って書いて、ここに。 [Y-40m-打合]  
 1246 あー、こいつ、新しいこいつをくつつければ★いいわけ。 [H-30f-打合]  
 1247 →そーうそー←、そーう新しいほう、★くつつけるの。 [Y-40m-打合]

さらに話し手の表現を和らげるために使われるフィラーもある。(49)(50)のナンカ、(51)のモーがそういった機能を担っている。(49)のナンカは否定辞「ない」の直前に置かれ否定表現が和らいでいる。話し手は「いやっ、ない」という自身の強い否定表現を、次の発話で「なんか、ないですねー」とナンカを使うことによって和らげているのである。(50)のナンカも同様に解釈できる。(51)のモーも話し手の表現を和らげる役割をする。また、モーは(52)が示すようにナンカと共に起す

る（モーナンカ）ことによって表現の和らげをさらに強調するものとなっている。

- (49) 5060 いやっ、ない、すみませんね。 [K-40m-電話打合]  
 5061 なんか、ないですねー、ええ。 [K-40m-電話打合]
- (50) 4932 →マニュアル通りに←できるか★どうか。 [H-40m-打合]  
 4933 →そうね。← [S-40f-打合]  
 4934 なんか、マニュアルほど傑作でもないからね。 [H-40m-打合]
- (51) 4003 もう、だって、これもね、あたしが不注意で、ちょっとこう、ベニヤのさ、かばんを  
 さ、置いたの、★こうやって。 [H-50f-雑談]
- (52) 1587 もー、なんか、むちゃむちゃ。〈笑い〉 [S-50f-打合]
- 話し手は聞き手に対してさまざまな配慮を働かせることによって、談話を進行させていく。(53)のウーンのように聞き手の質問に対して話し手が聞き手に対してためらいを示したり、(54)のホラのように聞き手に気づかせたりする場合である。なお、ここにいうためらいは塩沢 (1979) の“Hesitation”の「口ごもり」ではなく、単なる躊躇の意味を表す。
- (53) 3256 →なんで←こんなに遅くなったの。 [不明f-会議]  
 3257 うーん、遅くなった理由↑〈笑い〉 [I-40f-会議]
- (54) 3529 すごい、やっぱりね、あの一、図工の専科の一、なんてゆうのかな、個性が出るもん  
 ね。 [A-50f-雑談]  
 3530 ほら、工作みたいなのが好きな人とさー、絵を描くとゆうのが好きな人とかね。 [A-50f-雑談]

### 3.2 発話途中に出現するフィラーとその機能—発話展開に関与する機能

発話途中に出現するフィラーは発話展開に関与する機能を担う。話し手は発話の途中においてどのように次の発話を展開させていくかを考えるためにポーズ（間）を置く。そのポーズ（間）を埋めるためにフィラーが出現する。フィラーで間をつなぎ、次の発話の展開を整えるのである。発話途中に出現するフィラーの最も大きな機能はこうした発話の展開に関与する間つなぎ語としての機能である。

また、話し手は聞き手に対してどのように発話を展開させていくか方策を講ずる。聞き手に対する注意喚起もその1つの方策である。さらに聞き手に対してためらいや和らげを示す、話し手の心的態度の表出もそういった方策の1つと考えられる。こうした聞き手への注意喚起や話し手の心的態度の表出も発話展開に関与する機能として働いていると考えられる。

#### 3.2.1 間つなぎ語

発話の途中に出現して間つなぎ語として機能するフィラーには、母音型のエ、エー、エート型、コソア型のアノー、アノ、ソノー、ソノ、ナンカ型がある。

(55)が示すように、エ、エーが出現する位置はその前後にポーズ（間）が入る。そのポーズ（間）を埋めるために前後のポーズ（間）をつなぐ役割としてエ、エーが使用されている。

- (55) 688 だいたいですね、おおまかにゆって、連載と、え、特集とゆうふうに分けまして、それ  
 でー、どれぐらいーの、スケジュールで、えー、でますかしら、とゆう★ことで。

[H-30f-会議]

689 →ようする←にですね、え、20日（はつか）とゆうふうにゆってるんですが、とにかく、えー、[社名]さんが、営業している年内中に納品できれば、いいんです。

[H-30f-会議]

(56)に示すように、エートも発話途中に出現する場合はその前後にポーズ（間）がある。そのポーズ（間）に挿入されて、次の発話の展開を考える間つなぎ語として機能している。

(56) 821 や、でもそんなねえ、あの、あんまり複雑な、えーと、文字、文字づかいしてないんです。

[H-30f-会議]

コソア型のアノー、アノ、ソノ、ソノーも発話途中に出現する場合は間つなぎ語として機能する。特にソノは、(59)(60)(61)の「そうしますと、その、それを見込んで」「その、そうゆう」「その時点で、その」が示すように、その前後の語句がソ系の場合はソノとなりやすい傾向がある。

(57) 717 で、それは、あのー、こちらもあのー、えー、入稿する、入稿するといっ、なかなか入稿しないとかゆうんで、（ええ、ええ 他者（男））あのー、あっち、あのー、印刷ーのほうでも、ダイととったりとか、そうゆう、のがあんまり、こー、定期行物のわりにはシステマティック、じゃなかった、（はあはあ 他者（男））ってこともあると思うんですね。

[H-30f-会議]

(58) 902 それでー、あのー、今までや、やられた [社名] さんでの、（はい inf（女））なんかあの、入場からそのー、色校だし会議後（ご）、最後まで、（ええ inf（女））あ、あのスケジュール表みたいのはなんか、参考まで、ございます↑

[M-不明m-会議]

(59) 709 でー、そうしますと、その、それを見込んで、東京分と大阪分とで、ちょっと、あの、1日、納品日が、おそらくずれると思うんで、そのへんも見込んでいただいて。

[H-30f-会議]

(60) 1610 だから、まあ、その、そうゆう専門家による検討会議をやって、（うんうん inf（女））その検討結果を踏まえて（うーん inf（女））また審議会のほうで★議論しようじゃないかってゆう話になりました。

[H-40m-打合]

(61) 877 デザイナーさんのかた入稿立ち合っていただければ、その時点で、その、カラーの問題点等（とう）、あれば、その時うけたまわって、製版に反映させる、ことは可能ですけれど。

[M-40m-会議]

(62)のように発話途中に現れるナンカも間つなぎ語としての役割を果たす。また、(63)のようにアノと共起して「ナンカ、アノ」という複合フィラーで間をつなぐこともある。

(62) 451 も、おみやげってさー、そうなっちゃうとよくわかんないよね。 [S-20f-雑談]

452 あー。 [O-20f-雑談]

453 で、結局さー、なんかハワイなんて、なんかハワイらしいものなんて探そうと思ってもさー、なかなかなくてさー。

[S-20f-雑談]

454 んー。 [O-20f-雑談]

456 だから、ねー、なんか、ほらく間）趣味がある人とかだったら、ま、そうゆうもん買ってくればいけどおー。

[S-20f-雑談]

457 けっこう★困るよね。 [O-20f-雑談]



458 →うん。← [S-20f-雑談]

459 だから、なんか、こういうなんか、ほら、独特のものがあるところは★ねー、いいけどねー。 [O-20f-雑談]

463 ほーだよね、わたしもハワイ前に行った時に友達に今なんかボ、ボトルっていうか、シャンプーリンスかなんかでー、(うん、inf(女)) 上にてー、(あー、あの一 inf(女)) デイズニーの↑、★ダンボとかだっけ↑ [O-20f-雑談]

(63) 902 それで、あの一、今までや、やられた [社名] さんでの、(はい inf(女)) なんかあの、入稿からその一、色校だし会議後(ご)、最後まで、(ええ inf(女)) あ、あのスケジュール表みたいなのはなんか、参考まで、ございます↑ [M-不明m-会議]

発話途中に出現するマーマ次の(64)のように間つなぎ語として出現するものがある。またコーも(65)は間つなぎ語として出現するものである。

(64) 1715 だから、育児だと、かなりわかりやすいし、★まあ、一歳未満の子だし。

[H-40f-打合]

1716 →わかりやすい。←

[S-50f-打合]

1717 うーん。

[S-50f-打合]

1718 それから、そういう子どもについての責任で、ま、両親だって、はっきりしてるんですけど。 [S-40f-打合]

(65) 717 で、それはあの一、こちらはあの一、えー、入稿する、入稿するといって、なかなか入稿しないとゆうんで、(ええ、ええ 他者(男)) あの一、あっち、あの、印刷一のほうでも、ダイをとったりとか、そういう、のがあんまり、こー、定期刊行物のわりにはシステムティック、じゃなかった、(はあはあ 他者(男)) ってこともあると思うんですね。 [H-30f-会議]

### 3.2.2 聞き手への注意喚起

話し手は発話を展開する上で聞き手を自身の発話の中に引きずり込もうとして、聞き手の注意を喚起するような方策を講ずる。聞き手に質問を投げ与えたりして聞き手に働きかける場合である。こうした場合に使われるフィラーにアノー、アノがある。例えば(66)の質問文の前に位置するアノーは聞き手に対して問いかけるといった働きかけを行っている。また(67)(68)のアノー、アノのようにその後に聞き手のあいづち(ハイ)が入る場合は、聞き手に対して提案するといった働きかけを行っているものである。

(66) 768 まあ、あの一、フロッピーで入稿しますが、こういう、(そうですね、はい 他者(男)) 作るかたですねえ、(はい 他者(男)) 用と、それからこれが、えーと一、色分解をする、(はい 他者(男)) レイアウトとゆうことで、3通お渡ししていたんですが、(あー、そうですか、はい 他者(男)) それはどうですか、あの一、どうゆう方法が望ましいですか。 [H-30f-会議]

(67) 1600 それで、実はあの一 (はい inf(女))、お願いというのは(ええ、はいはい inf(女)) ですね、えーと、係りの者がどの程度お話したのかわからないんですが(あん、はいはい inf(女))、実は今度こういう、あの一ですね(はい inf(女))、えー介護休

業制度に関する専門家会合とゆうの（はい、はい inf（女））をやりたいと思ってまして [S-50f-打合]

- (68) 657 えーと、これあの、季刊で、いまあの、定期的に、3ヶ月、に1度、え、多少ずれることもあるんですけども、えー、定期的に出そうとゆうふうで、えー、いちおう、あの、（はい 他者（男））そうゆう気持ちでいるんですけども。 [H-30f-会議]

デ、デーも聞き手への注意を喚起する時に使われるフィラーである。特にデは(70)のようにホラと共に聞き手の注意をより強く喚起する。

- (69) 1099 これ、とりあえず、30万わたしがお預かりした分の、あんのー、あれだけ、清算しましたので、で、これが、そうです。 [H-30f-仕事]

- (70) 4755 どうもねえ、で、ほら、工事で、ごちゃごちゃ、もう、やってたし。 [M-60m-雑談]

- 4756 そう、やりましたね、★去年はね。 [H-30f-雑談]

- 4757 →でー、←今日はね、ひさ、久しぶりにそこ通って、あの、植物、見ようかってね、（ああ 他者（男））来たんですよ。 [M-60m-雑談]

また、デ、デーは(71)のように同一発話内で使用することによって滑らかに発話を展開させる役割をする。

- (71) 347 そいでー、したらその子たちが行けなくなっちゃって（うん 他者（女））、でなんか、ハワイ行くんです、みたいな話をしたらー、そのー、自転車屋さんの、お客さんの人なのね（うん 他者（女））、で、おれ、でー、ロスにはもうなんじゅっ回って行って人なんだけど。 [S-20f-雑談]

ホラも(72)のように注意喚起を示すフィラーとして聞き手への働きかけを行っている。

- (72) 1950 おばが、つまりおじの妻だけど、おばが、〈間〉教師なのね、（うん 他者（女））だから、ほら、夏休みとか春休みとかさ、長い休みがあるでしょ。 [H-30f-雑談]

- 1951 ええ。 [S-20f-雑談]

### 3.2.3 話し手の心的態度の表出 一気づき、思い起こし、和らげ、ためらい

自然談話録音資料を観察すると、発話途中に出現するフィラーのうちで話し手の心的態度の表出に使われるものがある。例えば、母音型のア、アー、アッは話し手の気づきの表出として使われている。

- (73) 4862 カレンダーにはね、こう印ついたりなんかするけど、ごちゃごちゃになっちゃうからね、（うん、他者（男））しまいにはどこにつけてあるかわかんないような、（うーん、inf（女））結局、あの一、あ、やっぱり年ですね。 [M-60m-雑談]

- 4863 ぼけっちゃてね、だめなんですよ。〈笑い〉 [M-60m-雑談]

- (74) 2989 えーと、それから250も、今日、初めてでございますね。 [H-40f-打合]

- 2990 250は一、（はい、inf（女））あー、これ。 [N-60m-打合]

- (75)4808 →それでね←出かけるとね、ほんとにあほな、こないだ、鎌倉へね、うーんとーほら、1950年代、世代的にゆうとほくらくらしいな、フランスの絵描きで、あっ、ドスタール。 [M-60m-雑談]

話し手の心的態度の表出には、思い起こしを表すものが観察される。例えば(76)のエートのよう

に、話し手が「ユニバース、の、」と言いかけ、エートを使って「えーと、ユニバースの太いやつと細いやつ」と思い起こす場合がそれである。

(76) 825 ですから、あの一、それは常にユニバース、の、えーと、ユニバースの太いやつと細いやつ。 [H-30f-会議]

また、表現の和らげを表すものもアノーに観察される。例えば(77)は「あの一、せりふじゃなくて」とアノーを否定表現の前に挿入することによってその否定表現を和らげ、さらに「あの一、まあ、うまくみんなでゆうってゆうのはゆわないのよ、あの子、一人じゃないと」とマーと共起することによって表現の和らげを強調している。

(77) 3723 それで、あの一、せりふーじゃなくてー、あの一★、まあ、うまくー、みんなでゆうってゆうのはゆわないのよ、あの子、一人じゃないと。 [A-50f-雑談]

さらに、話し手のためらいを表明するものも観察される。(78)のウーン、マー、(79)(80)のシー、(81)のモーがそれである。

(78) 788 あの一、うーん、まあ、デザイナー側も、しょうがないんじゃないってゆうあれだったんで。 [H-30f-会議]

(79) 1446 だけどさっきの話だと、下に降りてってとゆうー、(そうそうそう inf(女)) ん一、どうですかね。 [S-40m-会議]

(80) 2371 21インチは5万、ん一、まあまあ安い。 [不明m-雑談]

(81) 4689 あ一、いや一、もう、なんかね、一週間まえ、わたしのほうはばたばたしますけど。〈笑い〉 [H-30f-雑談]

### 3.3 発話末に出現するフィラーとその機能一言いよどみ・言いさし、発話の終了一

エー、アノー等のフィラーは発話末に位置することによって、言いよどみ、言いさしの標識として使われる。また発話末に現れるハイ、エエは発話の終了を示すフィラーとして使われる。

#### 3.3.1 言いよどみ・言いさし

言いよどみ・言いさしに使われるフィラーには、エー、エ、アノー、アノ、ソノ、ナンカ、デー、モー、コー、ホラ等が見られる。例を挙げておく。

(82) 3255 で一、できるだけ早く場所を決めてもらって、日程を決めてもらうってゆうことが第一歩なんですけども、★え一。〈言いさし〉 [I-40f-会議]

(83) 2164 →普通(布津)は、←普通(ふつ)は、え。 [S-30m-雑談]

2165 そうだね。 [M-40f-雑談]

2166 普通(ふつ)は食べに行くんですか↑ [S-30m-雑談]

(84) 1100 それで、えーと、あとの一は、あの一。〈言いさし〉 [H-30f-仕事]

(85) 2605 やっぱ全部やっぱり中でやったほうがいいってゆうのは、あの一。〈言いよどみ〉 [M-40f-雑談]

(86) 1523 あ、それでね、このお尻がないんだけどじゃ閉会ってのは一、じゃその。 [S-50f-会議]

(87) 1007 あ、石油がとれるのって、(あー inf(女)) 新潟と秋田しかないんですよ。 [S-20f-雑談]

- 1008 あ、そーだよねー、★なんか。 [H-30f-雑談]  
 (88) 5377 じゃあ、まずお茶出した方が★よろしいですか。 [S-40f-打合]  
 5378 →うん、うん。← [I-50f-打合]  
 5379 はい、★でー。〈言いさし〉 [S-40f-打合]  
 5380 →来たたら、←まずね。 [I-50f-打合]  
 (89) 2542 それに対して写真その他に、これはあらったほうがいいとか、そういう指示を、ま、印刷やさんのほうから、(うん、うん inf(女)) いつもやっている人から、(うん inf(女)) こうゆうかんじで入れたい、ことで、やれば、(うん、inf(女)) ほとんど、も  
う。〈言いさし〉 [H-不明m-打合]  
 (90) 4523 →だから、要するに←途中でー、やめちゃいけないんだから、遅刻んなる、に換算される。 [O-50m-会議]  
 4524 んー。 [T-30不明-会議]  
 4525 途中で、★こー。〈言いさし〉 [T-50m-会議]  
 4526 →遅刻になっちゃう↑← [N-20m-会議]  
 (91) 5615 今日ね、★ほら。〈言いさし〉 [K-30m-雑談]

### 3.3.2 発話の終了

ハイ、エエ、ウンは発話末に現れて、その発話が終了したことを明示する。発話終了を示すフィラーとして機能するハイ、エエ、ウンの例を挙げておく。

- (92) 2810 えーと、議員のかたか、助手のかたかの控室ございますねー、あちらのほうに、は  
い。 [H-40f-電話打合]  
 (93) 2593 全員フリー。 [M-40f-雑談]  
 2594 だから、あの、しかも、かなり、あの一、上級クラスですから、ええ。 [M-40f-雑]  
 (94) 2539 →ああ、なるほどね、コミュニケーションのいいほうがいいものね←うん。  
 [M-40f-打合]

## 4. おわりに

自然談話6000発話から採取されたフィラーは総数1680あり、最も出現率が高いフィラーはコソア型のアノー・アノで32.7% (対総数比) を占める。母音型のア (8.3%)、デ (7.7%)、ナンカ (7.1%) がそれに続き、以下エー (5.3%)、エート (4.6%)、マー (5.3%) という順位となっている。

また、自然談話のフィラーはその出現位置が発話頭か発話途中か発話末かによっても出現率が異なる。発話頭に出現する傾向が高いフィラーはア、アー、アッ、エ、エート、デ、デー、シー、ウン等である。発話途中に出現する傾向が高いフィラーには、アノ、アノー、ソノ、ソノー、コノ、コー、ソー、ナンカ、エー、マ、マー、モー、ホラ等が見られる。ハイ、ハイッ、エエ、ウンは発話頭と発話末に出現する傾向が高い。ただし、エー、エ、アノー、アノ、ソノ、ナンカ、モー等のフィラーは発話頭にも発話途中にも、発話末にも出現する。

これらのフィラーはその出現位置によって談話の中で果たす機能が異なるようだ。発話頭に出現

するフィラーは談話進行を管理する機能、即ち発話境界の明示、発話の切り出し、発話権の維持、前の発話の補正、話者の心的態度の表出等の機能を持つ。発話途中に出現するフィラーは発話展開に関与する機能として間つなぎ語、聞き手への注意喚起、話者の心的態度の表出等といった機能を持つ。発話末に出現するフィラーには言いよどみ、言いさし、発話の終了という機能が見られる。

ただし、フィラーの中には上記の機能を2つ以上併せ持ったり、重なり合ったりするものがあり、機能によるフィラー個々の解釈にはゆれが生ずることがある。今後はその他の自然談話の調査、観察を通して検証を行い、修正が必要となることもあろう。

### 引用・参考文献

伊佐早敦子 (1953)

「はなしことば序－不整表現を中心として－」『国語国文』醜22巻第3号－223号－

市川 孝 (1976)

「副用語5感動詞」大野晋・柴田武編『岩波講座日本語6文法1』岩波書店

遠藤嘉基 (1953)

「話し言葉と書き言葉」『言語生活』第21号

岡崎敏雄 (1987)

「談話の指導－初～中級を中心に－」『日本語教育』62号

現代日本語研究会編 (1997)

『女性のことば・職場編』ひつじ書房

小出慶一 (1983)

「言いよどみ」水谷修編『講座日本語の表現 [3] 話しことばの表現』筑摩書房

国語学会編 (1980)

『国語学辞典』東京堂出版

国立国語研究所 (1955)

『談話語の実態』国立国語研究所報告8 秀英出版

国立国語研究所 (1960)

『話しことばの文型』(1) 対話資料による研究－』国立国語研究所報告18 秀英出版

佐久間鼎 (1943)

『現代日本語法の研究』更生閣。改定版 (1952) 恒星社更生閣。復刻 (1983) くろしお出版

定延利之 (1993)

「談話構造とフィラー」『日本語シンポジウム 言語理論と日本語教育の相互活性化 予稿集』  
津田日本語教育センター

定延利之・田窪行則 (1995)

「談話における心的操作モニター機構—心的操作標識『ええと』と『あの (-)』—」『言語研究』第108号

塩沢孝子 (1979)

「日本語のHesitationに関する一考察」F. C. パン編『社会言語学シリーズNo.2 ことばの諸相』文化評論出版

田窪行則 (1992)

「談話管理の標識について」『文化言語学—その提言と建設—』三省堂

田窪行則・金水敏 (1997)

「応答詞・感動詞の談話的機能」『文法と音声』くろしお出版

田中章夫 (1977)

「助詞 (3)」大野晋・柴田武編『岩波講座日本語 7 文法Ⅱ』岩波書店

中島悦子 (2001)

「自然談話における応答詞の使い分け—「はい」と「うん」、「いいえ」と「ううん」—」『国士館短期大学紀要』第26号 国士館短期大学人文学会

野村美穂子 (1996)

「大学の講義における文科系の日本語と理科系の日本語—「フィラー」に注目して—」『文教大学教育研究所紀要』第5号

橋本進吉 (1948)

著作集『国語法研究』岩波書店

橋内 武 (1999)

『ディスコース 談話の織りなす世界』くろしお出版

畠 弘巳 (1988)

「外国人のための日本語会話ストラテジーとその教育」『日本語学』第7巻第3号

堀口純子 (1997)

『日本語教育と会話分析』くろしお出版

松下大三郎 (1977)

『増補校訂標準日本口語法』勉誠社

メイナード・K・泉子 (1997)

『談話分析の可能性－理論・方法・日本語の表現性－』くろしお出版

山下暁美 (1990)

「話し言葉におけるいわゆる“無意味語”」『講座日本語教育』第25分冊 早稲田大学日本語研究教育センター

山根智恵 (1997 a)

「留守番電話の談話の構造」『岡山大学大学院文化科学研究科紀要第3号』

山根知恵 (1997 b)

「話しことばにおけるフィラー～留守番電話の談話と電話の会話の資料をもとに～」『平成9年度日本語教育学会春季大会予稿集』

山根智恵 (2002)

『日本語の談話におけるフィラー』くろしお出版

山田孝雄 (1936)

『日本文法學概論』宝文館出版

山口堯二 (1984)

「5 感動詞・間投詞・応答詞」『研究資料日本文法④』明治書院

渡辺 実 (1971)

『国語構文論』塙書房